

営農情報(令和8年6月)

作成・監修 勝浦町農業振興推進班

■果樹全般

◇施肥(夏肥)

肥料吸収が旺盛となる夏期の施肥は、光合成能力を高くし、樹体の基礎体力を充実させ、果実の肥大促進、新根の伸長等に用いられる。

品目	時期	施肥基準(kg/10a) N-P-K	肥料名	施用量(10a)
温州みかん(早生)	6月上旬	5-4-4	柑橘なつとく配合(粒)	50kg
〃 (高糖系)	6月中旬	12-7-10	〃	120kg
すだち	6月上旬	10.5-6.3-8.4	ニューグリーンすだち	80kg
ゆず	6月下旬	7-4.2-5.6	木頭ゆず配合	60kg
かき	6月上旬	4-2.4-3.2	阿波のかがやき	40kg
キウイフルーツ	6月上旬	4-2.4-3.2	キウイ配合	50kg

※温州みかん交互結実栽培の場合、生産園は増肥する。

■キウイフルーツ

◇摘果・摘芯

摘果は、開花2週間後から行う。仕上げ摘果は樹全体で葉5枚に1果を基準とする。

摘芯は最先端の果実から12～15節先で行う。

【6月の病虫害防除】

温州みかん

時期	対象病虫害	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	使用回数
6月中旬	ゴマダラカミキリ (主幹部散布)	アクセル(フ)又は モスピラン(顆水)	200倍 〃	7日 14日	3回以内 〃
		ミカンハモグリガ	エクシレルSE	5000倍	前日
6月下旬	カイガラムシ類 ゴマダラカミキリ チャノキイロアザミウマ	モスピラン(顆水)又は トランスフォーム(フ)	4000倍 2000倍	14日 前日	3回以内 〃
		ミカンハダニ	ハーベストオイル	200倍	—
	黒点病	ジマンダイセン(水)又は ペンコゼブ(水)	600倍 600倍	30日 30日	4回以内 〃

※下旬の防除は混用できる。

※ミカンハモグリガの薬剤は、数剤のローテーションにより連用を避ける。

すだち

6月中旬	ヨモギエダシヤク ミカンサビダニ	コテツ(フ)	4000倍	前日	2回以内
6月下旬	ミカンハダニ	ハーベストオイル又は ダブルフェース(フ)	200倍 3000倍	— 前日	— 1回
	カイガラムシ類 ゴマダラカミキリ	モスピラン(顆水)又は トランスフォーム(フ)	4000倍 2000倍	14日 前日	3回以内 〃
	黒点病	ストロビー(ド)	2000倍	14日	3回以内
6月下旬	かいよう病	ICボルドー66D	200倍	—	—

※ICボルドーは、ハーベストオイル、ストロビー、ダブルフェースとの混用は不可。

コテツとの混用は、凝集を避けるため、先にコテツを溶かす。

ゆず

6月中下旬	ミカンハダニ	ハーベストオイル又は ダブルフェース(フ)	200倍 3000倍	— 前日	— 1回
	カイガラムシ類 ゴマダラカミキリ	モスピラン(顆水) トランスフォーム(フ)	4000倍 2000倍	14日 前日	3回以内 〃
	黒点病	エムダイファー(水)	600倍	90日	2回以内

※青玉出荷する場合、黒点病にはストロビー(ド)2000倍(14日前/3回以内)を使用する。

か き

時期	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	使用回数
6月上旬	カキノヘタムシガ・イラガ	パダンSG(水溶)	1500倍	45日	4回以内
	炭疽病 落葉病	ジマンダイセン(水)	600倍	45日	2回 //
6月下旬	カイガラムシ類	トランスフォーム(フ)	1000倍	前日	3回 //
	炭疽病 落葉病	オーソサイド(水)80	1000倍	7日	5回 //

キウイフルーツ

6月全般	果実軟腐病	トップジンM(水)又は ベルコート(水)	1000倍 1000倍	前日 前日	5回以内 //
発生園	カメムシ類	スタークル(顆水)	2000倍	前日	3回以内

■水 稲

◇田植え前後の管理

【病害虫防除】

田植7日前から当日までにビルダーリディア箱粒剤50g/箱 を施用する。

いもち病、イネミズゾウムシ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ等に効果がある。

【除草剤の散布】

次の初中期一発処理除草剤を使用する。

	(散布適期)	(使用量)
ジェイフレンドジャンボ	田植後 5～12日	400g/10a
ゴウワンDLジャンボ	田植直後 ～ 6日	700g/10a
デオーレジャンボ	田植後 3～12日	400g/10a
エンペラーフロアブル	田植直後 ～12日	500ml/10a



除草剤は田面が露出して乾燥してしまうと効果を失うため、散布後40日程度は、田面が乾かないように水管理に注意する。

【ジャンボタニシの対策】

ジャンボタニシは、主に田植え2～3週間後までに被害を受ける。その後は深刻な被害は受けないので、農薬で防除する場合は、早めに行う。

ジャンボたにくん 1～2kg/10a(収穫60日前まで、2回以内)

スクミンベイト3 2～4kg/10a(使用時期、使用回数制限なし)

■夏秋なす

◇定植後の管理

- ・主枝は4本仕立てを基本とし、1番花を中心に3～4本を伸ばし、その下に発生するわき芽は、成りぐせが付いたことを見極めて除去する。
- ・温度の低い頃は、自然結実が難しいのでトマトーン50倍を開花当日に処理し、果実肥大を促進する。(目安としては6月末ごろまで)
- ・追肥は、定植1か月後を目安に速効性の化成肥料を10a当たりチッソ成分で3kgを目安に施用する。その後は10～14日間隔を目安として草勢に応じて追肥間隔を調整する。

■お知らせ

【いきいきファーマーズで営農講座を受講してみませんか】

勝浦町いきいきファーマーズでは、毎月第3月曜日の午前中、レヴィタかつうらで営農講座を開催しています。みかんの管理を主に、最新の情報など営農に役立つ講義をしています。

今回は6月15日(月)9:30から開催します。また、日帰りの視察旅行も予定しています。

入会を希望される方は、役場農業振興課にて受付しておりますのでよろしくお願いいたします。

<お問い合わせ先>

勝浦町農業振興推進班

勝浦町農業振興課42-1505 JA農業振興戦略実践課088-538-7180 徳島農業支援センター088-626-8768